



恭賀新年 新年のお慶びを申し上げます。



新年のごあいさつ
病院長 内山 和久

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。令和になっての初めての年越しですが、皆様方におかれましては、よき新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。本年も大阪医科大学附属病院をよろしくお願い致します。

2019年は台風や河川増水により東日本各地が甚大な被害を受けました。被災された方々におかれましては、心よりお見舞い申し上げます。本院におきましては、2018年6月の大阪府北部地震において一部の施設が被災しましたが、完全復旧しておりご安心してご利用いただけます。

一方、本院の事業としましては、2018年6月に、関西BNCT共同医療センターを本学敷地内に開院し、次世代の有力ながん治療法として注目されています。BNCT(ホウ素中性子捕捉療法)とは、加速器から発生する中性子とホウ素の反応を利用し、正常細胞にほとんど損傷を与えずにがん細胞のみを選択的に破壊する画期的な治療法で、現在悪性脳腫瘍と頭頸部のがん臨床効果が認められています。今後、適応疾患の拡大や、再発がん、浸潤がんなど治療困難ながんにも効果が期待でき、外科治療を行わないので患者さんのQOL向上にも貢献できると注目され、2019年から臨床治験が開始されております。

本院は三島医療圏の地域がん診療連携拠点病院であります。緩和ケア部門の充実により、2019年4月に地域がん診療連携拠点病院(高度型)と認定されました。またがんゲノム医療連携病院に指定され、がん治療の充実を図っています。2016年3月に竣工した中央手術棟には、増加傾向を辿る手術症例に対応できるよう、20室の手術室と16床のICUを配置し、ハイブリッド手術室や内視鏡外科手術室、ロボット手術室などの最新設備を施しています。年間12,000例前後の手術を施行しており、今後さらに手術数の増加が見込まれています。

大阪医科大学創立100周年事業として、12階建ての病院新本館建築がスタートしました。コンセプトを『スーパースマートホスピタル』とし、高度先進医療の実践と安全で快適な医療環境を整備し、高い機能と設備を備えた病院づくりを行います。現在、旧病棟を取り壊しております。工事期間中は、患者さんや関係者の方々に、ご不便をおかけしますが、何卒ご理解の程お願い申し上げます。

最後に、われわれ職員一同は、今後とも日々丸となって高度先進医療を推進するとともに、患者さんご家族に安心と安らぎを与えられる病院を目指しますので、本年も何卒よろしくお願い申し上げます。



安全で質の高い
医療・看護の提供を
目指して
看護部長 中山 サツキ

謹んで新春をお祝い申し上げます。

令和に改元されて初めての新春を迎えた今年は、十二支の始めである子年にあたります。「子(ね)」は、種子の中に新しい生命がさざしはじめる状態を意味するということです。前回の子年の2008年(平成20年)を振り返ってみますと、北京オリンピックが開催されリーマンショックが起きるなどの出来事がありました。iPhoneが発売されたのもこの年です。医療分野では従来の老人保健制度に代わり後期高齢者医療制度が創設されました。

それから12年を経た今年、東京オリンピックが開催されることとなり国際的な一大イベントに大きな経済効果も期待されています。AI(人工知能)や情報技術が飛躍的な発展を遂げ、日常では携帯電話やスマートフォンの活用が当たり前になり、医療もまたiPS細胞やロボットを活用した手術等の革新的な技術発展がみられています。しかし、一方で、近年多発する想定外の自然災害への対応や働き方改革等、新しい課題も生じています。

本院は、高度・先進医療を提供する特定機能病院であると同時に災害拠点病院の機能も有しています。災害医療および遠隔地での大規模災害に対する災害医療チームの派遣等も重要な役割であり、災害発生時は迅速な対応ができるよう体制を整えております。

また、地域包括ケアの充実という点におきましては、一昨年から取り組みはじめた広域医療連携センターにおける入退院支援(入院前から退院後の生活を視野に入れた支援体制)を地域の医療施設とも連携を密に図りながら、さらに強化していきたいと思っております。

一方、昨今の働き方改革の議論に伴う医療者の業務負担においては、働きやすい職場環境づくりが大きな課題の一つになっています。皆さまに安全で質の高い医療・看護を提供するために、それを提供する側の医療者が健康でやりがいをもって働ける環境づくりにも努めてまいります。

昨年から新病棟の建築工事が本格的に始まり、皆様にはご迷惑をおかけしておりますが引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。本年も職員一同、患者さんに寄り添うあたたかな医療・看護が提供できるよう努めて参りたいと思っておりますので、何卒よろしくお願い致します。

新任のご挨拶

放射線腫瘍科 科長 二瓶 圭二



令和元年8月16日付で放射線腫瘍科科長に就任いたしました二瓶圭二と申します。放射線腫瘍科は、がんの放射線治療を実施する診療科です。放射線治療は言うまでもなく三大がん治療のひとつであり、早期癌から進行癌まで、また症状緩和から根治治療まで、がん治療のあらゆる段階に重要な役割を担います。最近の技術発展は目覚ましく、ミリ以下の位置精度で治療が可能となり、強度変調放射線治療(IMRT)や定位置放射線治療(SRT)などの高精度放射線治療が急速に普及しています。

本院は高槻三島地域の医療の中心であることは明らかです。高齢化もあいまって今後ますます地域におけるがん診療の重要性は増していくと考えられます。院内お

よび地域の幅広いニーズに対応するために、診療体制の整備、特に高精度放射線治療をより迅速かつ安全に提供できるよう体制整備に努めてまいります。また、放射線治療は、多職種医療の代表でもあります。他科との連携強化に加えて、放射線技師や看護師とのチーム医療により、最適な放射線治療を患者さんに届けられるよう尽力いたします。

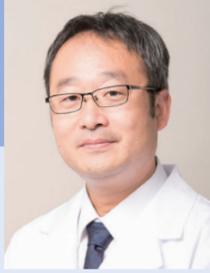
本院および地域医療に大いに貢献したいと考えておりますので、どうぞご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

市民公開講座

2019年11月16日開催

「令和時代のがん化学療法」

化学療法センター 後藤 昌弘



がん薬物療法の領域では「がんゲノム医療」「がん免疫療法」の臨床導入が、治療成績の飛躍的な向上をもたらしています。

がんゲノム医療

ゲノム医療とは、個人の「ゲノム情報(ゲノム: 遺伝子をはじめとした遺伝情報の全体に対する総称)」や各種検査情報をもとに、その人の体質や病状に適した「医療」を行うことをいいます。肺がん、大腸がん、乳がんなど一部のがんでは、医師が必要と判断した場合にがん遺伝子検査を行い、1つまたはいくつかの遺伝子を調べ、診断したり検査結果を基に薬を選んで治療したりすることがすでに行われてきました。昨年からは、多数の遺伝子変化を一度に調べる「がんゲノムプロファイリング検査」が、保険診療として開始されました。この検査は「がん遺伝子パネル検査」とも呼ばれ、がんの発生や進行に関わる可能性がある遺伝子100~300個を対象に、まとめて異常を調べる手法です。この検査により今後ますます効果の期待できる薬物療法を受ける機会は増えると考えられています。

がん免疫療法

人間には外敵を駆除するシステムである「免疫」がありますが、がんは「免疫チェックポイント分子」により「免疫」から逃れ生き延びることが明らかになってきました。患者さん自身の免疫力をがん細胞に向けてがんを攻撃する免疫療法が脚光を浴びています。現在このがん免疫療法の治療効果予測マーカーの研究が積極的に行われています。

当院では地域がん診療連携拠点病院、がんゲノム医療連携病院として、確実に効く薬がある患者さんを同定し最適な時期に最適な治療を届けるべく今後も努力します。



2019年12月21日開催

「人生100年時代に備えた心臓リハビリテーション」

リハビリテーション科 土井 あかね



先進国では2007年生まれの2人に1人が100歳を超えて生きることが予想され、「人生100年時代」という言葉を最近よく耳にするようになりました。平均寿命が延びることは喜ばしいことですが、それは、健康ならでのことです。誰にもお世話にならずに生涯を全うすることは万人の夢であり、生涯元気を意味する健康寿命を延ばすことこそ、大阪医科大学附属病院に課せられた使命です。残念ながら、現在、誰かのお世話にならざるをえない平均寿命と健康寿命の間は、男女差はありますが、平均すると10年以上です。誰かのお世話にならないためのキーワードは「食事(食う)」「生活習慣(寝る)」「運動(遊ぶ)」です。

しかし、心臓や動脈の病気を持つ方が、運動をしても大丈夫？素朴な疑問に答えましょう！本講座では、心臓や動脈の病気を持つ方へ薬や手術と並ぶ大切な治療法である心臓のリハビリテーション治療をテーマに、最近の科学的根拠と豊富な臨床経験に基づく運動を含んだ包括的な治療のお話をしました。

さあ、「食う」「寝る」「遊ぶ」で人生100年時代を楽しみましょう！



看護スペシャリスト vol.20

専門看護師・認定看護師の活動

「患者さんやご家族に寄り添い、安全に安心できるがん化学療法看護の提供を」

がん化学療法看護認定看護師 菊尾 雅子

がん医療における化学療法は従来の抗がん剤だけでなく、分子標的治療薬やがん免疫療法薬など新たな治療薬が開発され、治療方法や副作用が多様化しています。がん化学療法看護認定看護師の役割は、化学療法における治療選択の支援や、薬剤に伴う副作用への対応など、患者さんやご家族が安全に安心して生活が過ごせるよう支えることです。近年、通院治療を行う患者さんが増加しており、自宅での生活や副作用に対する不安を抱いておられます。私は、患者さんやご家族の思いに寄り添いながら、がんや治療とうまく付き合っていくよう一人ひとりの生活に合わせて、一緒に取り組み支えていくことを大切にしています。そして医師や薬剤師、がん相談支援センターや緩和ケアチームなど医療チームと協働して最善ながん医療・看護が提供できるようにしたいと思っています。



TOPICS

毎年恒例 「院内コンサート」

～立秋のひと時を素敵な音楽で満喫～

9月28日(土)午後2時から、附属病院外来ホールにおいて、毎年恒例の「院内コンサート」を開催しました。

本学の医学部と看護学部の学生で編成される「室内管弦楽部」と「グリーンクラブ」による奥行ある演奏と合唱に続き、星賀専門教授がピアノ連弾で、多様なジャンルの曲を巧みなタッチでリズムカルに演奏され、浮村専門教授は、男声二重唱を披露されました。

最後は、会場内の皆さんと一緒に「ふるさと」を大合唱し、終演しました。

美しく奏でられる楽器や合唱の響きは、生演奏ならではの臨場感で、会場内の皆さんは、素敵な立秋のひと時を楽しまれました。



大阪医科大学附属病院 ボランティア活動報告

～病院ボランティア総会～

～病院ボランティアグループ「ふれあい」総会～

第12回 病院ボランティア総会

2019年 10月10日 木曜日、歴史資料館3階にて、開催 !!

主催 ボランティア支援室

内山病院長の挨拶

今年度のボランティア総活動時間は4,686時間。ボランティアの皆様の尊い人生のお時間を、本院のボランティア活動に捧げていただきました。今年でボランティア活動も12年目を迎え、1,600時間を超えたボランティアの方が2名いらっしゃいました。感謝状は100時間ごとにひとりひとりに授与されます。総勢38名の方たちに、病院長から1年間の活動をたたえ心より感謝状を授与させていただきました。

これからも「ふれあい」活動の皆様への温かいご支援をよろしくお願いいたします。

ボランティア 松田さんへ感謝状授与



花岡
ボランティア支援室長の挨拶



病院ボランティアを募集しています

院内でボランティア活動をしていただく「病院ボランティア」を募集しています。
大阪医科大学附属病院ボランティアグループ「ふれあい」が活動しています。

- 募集対象：満16歳から75才までの心身共に健康な方
- 応募方法：随時募集しておりますので、まずはお電話でお問い合わせください。
- 活動内容：病院玄関での外来患者さんのご案内・誘導、患者さん図書整理・入れ替え、季節の飾り(折り紙)、園芸・植栽、縫製、車いす空気圧定期点検、小児科病棟でのイベント企画など
- お申込み・お問い合わせ先
広域医療連携センター ボランティア支援室 山田、梶
TEL:072-684-7230(直通) お気軽にお問い合わせください。